

# ◎農業経営収入保険制度加入促進事業

事業費：388千円

(農林水産課)

## 事業目的

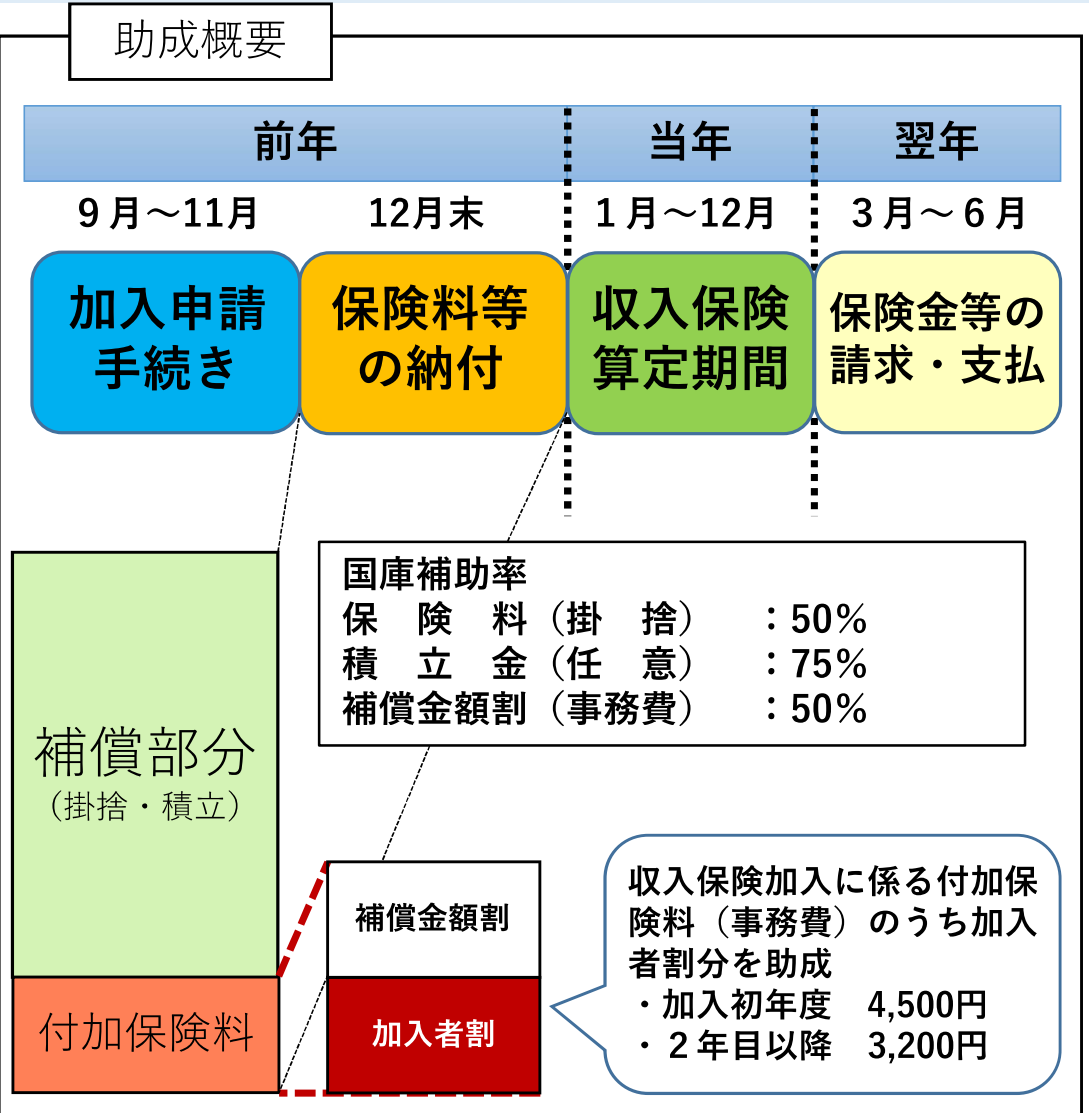
- 収入保険制度（H31.1月～）は、農作物の品目の枠にとられず、自然災害などによる収入減少だけではなく、市場価格の低下など農業者の経営努力では避けられない農業収入の減少を補填する制度。
- COVID-19の影響により販売収入が減少した場合も補償対象となることから、農業者の加入促進を図るため、収入保険に係る付加保険料の一部を助成することを目的とする。

## 事業内容

- 収入保険加入者の事務費賦課金を軽減する。

## 補助対象経費等

- 収入保険加入に係る事務費賦課金加入者割部分を助成
  - 加入初年度分：4,500円×37戸＝166,500円
  - 加入2年目以降分：3,200円×69戸＝220,800円
  - 計387,300円



# 収入保険をご紹介します！

全ての農産物を対象に、自然災害による収量減少や価格低下をはじめ、農業者の経営努力では避けられない様々なリスクによる収入減少を補償します。

自然災害や病虫害、鳥獣害などで収量が下がった	市場価格が下がった	災害で作付不能になった	けがや病気で収穫ができない
倉庫が浸水して売り物にならない	取引先が倒産した	盗難や運搬中の事故にあった	輸出したが為替変動で大損した

## (1) 加入できる方

青色申告を行っている農業者（個人・法人）

※青色申告（簡易な方式を含む）の実績が1年分あれば加入できます。

※収入保険と、農業共済、ナラシ対策などの類似制度は、どちらかを選択して加入します。

※ゲタ対策につきましては、同時に加入できます。

◎令和3年1月からは当分の間の特例として、野菜価格安定制度の利用者が収入保険に加入する場合、収入保険と野菜価格安定制度を同時利用（1年間）することができます。

## (2) 対象収入

農業者が自ら生産した農産物の販売収入全体

※簡易な加工品（精米、もちなど）は含まれます。

※一部の補助金（畑作物の直接支払交付金等の数量払）は含まれます。

※肉用牛、肉用子牛、肉豚、鶏卵は、マルキン等の対象なので除きます。

## (3) 補填の仕組み

● 保険期間の収入が**基準収入の9割**（5年以上の青色申告実績がある場合の補償限度額の上限）を下回った場合に、下回った額の**9割**を上限に補填します。

※基準収入は、農業者ごとの過去5年間の平均収入（5中5）を基本とし、規模拡大など保険期間の営農計画も考慮して設定します。

※「掛捨ての保険方式」に「掛捨てとならない積立方式」も組み合わせるかどうかは選択できます。補償限度額は基準収入の9～5割の中から選択できます。

※保険方式の支払率は9～5割、積立方式の支払率は9～1割の中から選択できます。

● 農業者は、**保険料、積立金等**を支払って加入します。（任意加入）

※保険料は掛捨てになります。保険料率は、1.08%（50%の国庫補助後）で、自動車保険と同様に、保険金の受取がない方は、保険料率が下がっていきます。

※積立金には、75%の国庫補助があります。これは自分のお金であり、補填に使われない限り、翌年に持ち越されます。

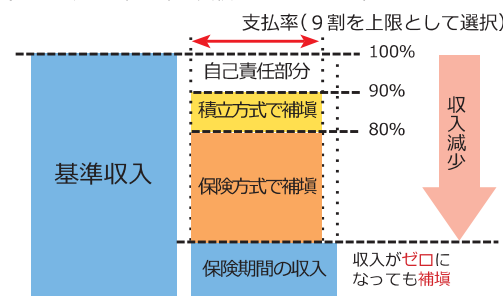
※税務申告上、保険料及び付加保険料（事務費）は、必要経費（個人）又は損金（法人）に計上します。積立金は、預け金として取り扱います。

### 基本のタイプ

- 例えば、**基準収入1,000万円**の方の場合、保険料7.8万円、積立金22.5万円、付加保険料（事務費）2.2万円で、**最大810万円の補填**が受けられます。
- このタイプは、保険期間の**収入がゼロ**になったときは、**810万円**（積立金90万円、保険金720万円）の補填が受けられます。

### 基本のタイプの補填方式

（※5年以上の青色申告実績がある者の場合）



「基準収入」は、過去5年間の平均収入（5中5）を基本に規模拡大など、保険期間の営農計画も考慮して設定

令和2年1月からは、補償の下限を選択することで、最大約4割安い保険料で加入することができます。

➡詳しくは次のページへ！

## 掛金の安いタイプをご紹介します！

補償の下限は、基準収入の50%、60%、70%から選択できます。

### 例えば、基準収入の70%を補償の下限として選択した場合

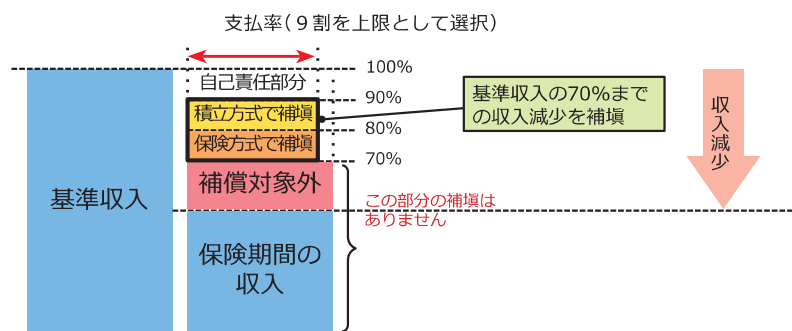
- これは、保険期間の収入が基準収入の9割を下回ったときに、**基準収入の70%までの額の9割を上限に補填**を受けるタイプです。
  - 例えば、**基準収入が1,000万円**の方の場合、保険料4.4万円、積立金22.5万円、付加保険料1.9万円で、保険期間の収入が700万円になったときは、**最大180万円**（積立金90万円、保険金90万円）の補填が受けられます。
- ただし、**700万円を下回った分の補填はありません**。

**保険料は、基本のタイプに比べて約4割安くなります。**

	保険料	積立金	付加保険料（事務費）	補填金
基本のタイプ	7.8万円	22.5万円	2.2万円	最大810万円
補償の下限70%	4.4万円	22.5万円	1.9万円	最大180万円

### 基本収入の70%を補償の下限とした場合の補填方式

（※5年以上の青色申告実績がある者の場合）



「基準収入」は、過去5年間の平均収入（5中5）を基本に規模拡大など、保険期間の営農計画も考慮して設定

### 加入・支払等手続のスケジュール

※保険期間が令和2年1月～12月の場合のイメージです。

※保険期間は税の収入の算定期間と同じです。法人の保険期間は、事業年度の1年間です。事業年度の開始月によって、スケジュールが変わります。

令和元年	令和2年	令和3年
12月末まで	1月～12月 （税の収入の算定期間）	確定申告後（3～6月）
加入申請	保険期間	保険金・特約補填金の請求・支払
保険料・積立金・付加保険料（事務費）の納付		

※保険料・積立金は分割支払も可  
（最終の納付期限は保険期間の8月末）

※保険期間中に災害等により資金が必要な場合は、つなぎ融資（無利子）

詳しい内容については、お近くの農業共済組合、全国農業共済組合連合会、又は農林水産省経営局保険課（03-6744-7147）へお問い合わせください。



収入保険

検索

Webサイトでは様々な情報を公開中！  
<https://www.maff.go.jp/j/keiei/nogyohoken/syunyuhoken/index.html>